

第五十七回 顎関節症の2つのタイプ

顎関節症にも大きく分けると2通りがあるものです。

1つは頭蓋骨を始め体全体が左右・上下の捻れ、ズレをおこすタイプです。

このタイプは川の水を堰き止めた様に体の一部分に血流が悪く、病気の原因をつくるものです。そしてこの場合は、左右の前後の歯の噛み合わせのバランスが崩れているために、首の骨は直（ストレートネック）になっているものです。

もう1つは捻れが頭蓋骨、左右の足の長さ、胴体部にそれ程にズレが無い場合は頭蓋硬膜の緊張をおこし、頭蓋骨と足首から、月日が経って体の胴体部の中心に向かって全身に硬膜の緊張をおこすものです。

この時の首の骨は逆カーブつまり後方湾曲になっているものです。全身の体がかたくなるだけでなく、全身の血流が悪くなるものです。言い換えれば抵抗力、免疫力が低下するという事です。

原因はといえば外的障害を受けたという事です。打撲、歯の矯正治療を受けた、歯のインプラントを埋め込んだとか、自分の体に合わない薬又は毒薬、腐った食べ物を食べたとかレントゲンのMR I、CTの強い電磁波を受けた場合に頭蓋硬膜の緊張をおこすものですが、この上にさらに強い薬を服用しますと左右の足の長さが急に变化するものです。その長さの違いが大きい程ショックにつながるものです。

毒物、腐った食べ物を身体に接触させたり体内に取り込んだりすると、右足が短くなるものです。

薬の効能が強すぎますと左足が短くなるものです。左右の足の長さに変化をおこすという事は骨盤が左右に捻れ頭蓋骨も左右に捻れ、その間の首の足、背骨も捻れるものです。同じ人に毒物を手に持たせ、すぐに離し、効能の強い薬を持たせますと一瞬に左右の足の長さと体の捻れが逆になるものです。

例えば、不眠症の人は首の骨の上から2番目が捻れているものです。

不眠症を治すという薬を手で握るだけで首の骨の上から2番目の骨は正常に戻るものですが、今度は今迄正常であった背骨の上から3番目、8番目の骨が捻れるものです、7番目は脾臓（ひ臓）です。脾臓は眼の上のおでことか足のふくらはぎに異常反応をするものです。

8番は肝臓で肝臓は下顎のあたりの皮フ、又は右足のヒザに異常反応するものです。

不眠症を治す薬を体から離れたところに置きますと、首の上から2番目の骨が捻れ、背骨の上から7番8番の骨が正常に戻るものです。歯で言いますと顎関節症を治してから歯の

かみ合せを調節すればよくなるものですが、顎関節症は体全体のズレです。体全体のズレを治した上で歯の噛合せの調節をしなければならないものです。

顎関節症は日本だけでなく世界的に治せる人は少ないものです。

マウスピースとか歯の矯正治療では逆に頭蓋骨を壊し、全身の血流が悪く病的な状態になるものですが、上下の歯をかみ合わせた時、下の前歯が上の前歯に隠れてしまうタイプ人も、頭蓋硬膜の緊張を起こしているものでずから常に体がダルいものです。